

パール通信

vol.9
2012.8



p2 イベント報告

- 平成24年度伊勢新聞パール倶楽部
全体総会

p3 イベント報告

- 倉田真里さんチャリティピアノ
コンサート
- 御園座企画 2月大歌舞伎

p4 イベント報告

- 水谷太美さんお別れの会
- 三枝・大友氏企画コンサート
- 中国・大連研修旅行

p5 会員活動紹介

- Salon de natsu 藤井夏子さん
- 兵吉屋 野村 薫さん

p6 連載コラム

ビューティーコンサルタント林かづの
「伊勢志摩魅力再発見！」

p7 連載企画

- 「親バカ子自慢」 第9回
秦 加奈さん
- 「なぜなに？三重県」 第3回

p8 イベント案内

イベント報告

平成二十四年度パール倶楽部全体総会開催 中川千恵子会長を再任

五月二十九日、三重県総合文化センター セミナー室Bで、平成二十四年度伊勢新聞パール倶楽部全体総会を開催しました。

冒頭、四月十八日に逝去された水谷太美副会長を偲んで参加者一同が黙祷しました。議事に入り、平成二十三年度事業報告、同決算報告、会則変更、新役員選出、平成二十四年度事業計画、同予算計画の六議案が承認されました。

会則は、より地域に密着した積極的な活動を行えるように、理事の人数を五人以内と変更しました。

また、今年度は役員改選であり、中川千恵子会長が再任されました。新役員は次の通り、任期は二年間です（敬称略）。

会長	中川 千恵子
副会長	小笠原 まき子、土川 禮子
理事	儀賀 美智子、田中 彩子
	伊藤 ふみ代、木下 慶子
監査	村田 典子



挨拶する中川会長＝三重県総合文化センターにて

総会終了後は、NPO法人WISH FHA認定上級シューフィッターの永井恵子氏による「いきいき快足！若さを保つ歩き方」と題したワークショップが行われました。参加者は自分の足がどのような状態なのか触ったり、会場内を実際に手を振って歩いたりしながら、身体のゆがみなどを確認しました。内容の一部をご紹介します。

足は、人間の体重を支え、歩いたり走ったりして、身体のバランスをとっています。また立位時は、心臓だけでは下肢に流れてきた血液をうまく循環することができないのですが、歩いたり走ったりすることで、下肢の筋肉が収縮と弛緩を繰り返して血液を押し上げて心臓に送り返しています。「足は第二の心臓」といわれるのは、この働き（ミルキング・アクション）を表しています。

また、子どもの成長過程においても、足はとても重要な役割を果たしています。幼児の足は約8割が軟骨でできていて形が変わります。骨化期とよばれる12歳までに、正しい歩き方、靴の選び方や履き方を身につけ、身体を支える筋肉や脳の働きを良くするアーチを形成することが、身体の土台となる足の成長期にはとても大切なことなのです。

人間は体重をかくと、親指の付け根・小指の付け根で支えています。この3点を結ぶ3つのアーチが、体重の分散や、歩行時の衝撃を吸収する「スプリング」の機能を果たしています。このアーチが崩れると、腰痛などの病気の原因になることがあります。加齢や運動不足によってもアーチ力は低下します。

そこで大事になるのが「正しい靴選び」。自分の足に合っていない靴を履き続けると、靴擦れや爪や足趾の変形、腰痛や肩こり、扁平足など徐々に全身にダメージを与えます。靴は自分のサイズに合うもので、アーチバランスを補助してくれる機能性のあるものを選びましょう。そして姿勢を良くし、正しい歩き方で筋肉を鍛えることで、いつまでも健康的な生活を送りましょう。



模型を使って説明する永井氏は三重県総合文化センターにて

イベント報告

倉田真里さんチャリティピアノコンサート

被災地復興の祈りを込めて熱演

昨年十二月六日夜、津市西丸之内の津リージョンプラザお城ホールで、伊勢新聞パール倶楽部主催とした、東日本大震災の被災児童を支援するためのチャリティピアノコンサート「東日本大震災一子どもたちへ」(伊勢新聞社共催、三重県など後援)を開き、津市にゆかりのピアニストでウィーン国立音楽大学講師、倉田真里さんがドビュッシーやベートーベン、バッハ、リストなど十三曲を、被災地復興の祈りを込めて熱演しました。

女性同士の交流や研さんをしている当会が、社会貢献活動として初めて実施したもので、演奏後に中川会長が、大震災で親を失った遺児の心のケアを行う「あしなが育英会」(東京)関係者に、入場料や協力企業の協賛金、会場での募金による寄付金の目録を贈呈しました。

倉田さんは冒頭、ドビュッシーの「前奏曲集」から「沈める寺」など三曲を演奏。水に沈んだ町が祈りによって再び浮上した感動的なケルト神話を題材にした「沈める寺」は、津波被害を受けた被災地に思いを寄せてあえて選曲したそう、荘厳な音色に約四百人の聴衆が聴き入りました。



演奏後あいさつする倉田さん＝津市西丸之内の津リージョンプラザお城ホールで

ショパンのノクターンやバッハのトッカータでさらに聴衆を魅了し、最後のリスト「タンテを読んで」では、天国と地獄が交差する壮大な曲を力強く演奏。弾き終えた倉田さんは、オーストリア・ウィーンでもチャリティ演奏会を三度実施して被災地に楽器を贈る活動を進めていると話し、「母の実家のある津で、皆さんと一緒に、被災地のために少しでも力になればうれしい」と話していました。

イベント報告

御園座企画 二月花形大歌舞伎

特別鑑賞会に会員二十二名が参加

二月四日、名古屋市中区栄の御園座で開かれた「御園座企画 二月花形大歌舞伎」の特別鑑賞会に伊勢新聞パール倶楽部会員が参加しました。

参加者は、開演前に歌舞伎教育講師の渡辺久男氏より初めての方にも親しみやすい歌舞伎のいろは、演目の解説を学び、歌舞伎への造詣を深めました。

演目の見所は、豪快な尾上松緑さんが演じる平知盛と華麗な尾上菊之助さんが初役に挑んだ、直侍の片岡直次郎などで、花形歌舞伎ならではの熱気溢れる舞台が披露されました。

参加者からは、「開演前に演目の見所や解説などを聞くことができ、興味深く鑑賞できた」「日常を離れ、素敵な時間を過ごすことができた」などの意見が聞かれました。



渡辺氏の解説に耳をかたむける参加者＝名古屋市中区栄の御園座で

計報

水谷太美・初代副会長が急逝

五月二十一日にお別れの会

昨年度まで伊勢新聞パール倶楽部副会長を務めていただいた水谷太美様（ミス・ネットワーク松阪前会長）が、去る四月十七日、八十一歳で急逝されました。

水谷様は、明るく華やかなことが大好きな方で、いつも積極的に活動していました。当会においても、設立当時から精力的に活動していただき、初代副会長として会員向けに講演いただいたり、会員の方々を引っ張っていただきました。

五月二十一日に松阪市のフレックスホテルで開かれたお別れの会も、花で満たされた祭壇を前に、在りし日の水谷様のテレビ出演時の映像が流れたり、参列者の

皆さんが思わず微笑んでしまうような場面もありました。生前の水谷様の生き方を表したような会でした。

「真珠のようにつながり、輝く」というパール倶楽部のテーマとも重なるような、水谷様の遺志を引き継ぎ、当会もますます活動していきたいと思えます。心よりご冥福をお祈りいたします。



花に囲まれた祭壇＝松阪市のフレックスホテルで



ホールに展示された水谷さんの写真
＝松阪市のフレックスホテルで

イベント報告

三枝成彰・大友直人氏企画 クラシックコンサートに参加

七月三十日、愛知県芸術劇場コンサートホールで、「三枝成彰・大友直人の企画・構成による ジャパン・ヴィルトゥーゾ・シンフォニー・オーケストラ 名手たちの交響楽団 第18回名古屋公演 交響曲の歴史」に当会会員が参加しました。

日本を代表するオーケストラのコンサートマスター、首席奏者を中心に編成したオーケストラの素晴らしい演奏に、会場全体が聴き入っていました。

イベント報告

中国・大連研修旅行を実施

五月二十日―二十二日の三日間、中国・大連、旅順への研修旅行を実施しました。

多数の日本企業が進出している大連市内では、大連賓館や旧満州鉄道本社など歴史を感じさせる施設を見学。旅順では、日露戦争の攻防戦の鍵となった二〇三高地・水師英会見所をはじめ、東鶏冠山北堡壘などを回りました。

地元の方の憩いのスペースにしたい

会員活動紹介

藤井夏子さん Salon de Natsu

四日市市内で製陶業を営む老舗企業「株式会社藤政製陶所」には、製陶部門とエステ部門がある。「製陶」と「エステ」。両部門を業種的に結びつけるのは難しい。どのようなきっかけで、エステ部門を設立することになったのかを責任者の藤井夏子さんに聞いた。

藤井さんは、エステ部門設立のきっかけを母親が病気に罹患したことと話し、Salon de Natsuは、地元の方に愛される憩いのスペースにしていきたいと意気込む。

訪問者の心と体のケアに勤しむ毎日を通す藤井さんも、自宅へ戻れば食べ盛りの大学生の長男、高校生の次男を持つ二児の母親だ。力仕事をこなす主人、息子の健康管理には特に気を遣っている様子。一汁一菜を基本とした、自慢の手料理を食卓へ並べることが藤井家のブームだという。



サロンで使っているYOSAと藤井さん
四日市市安島のSalon de Natsuで

住所：四日市市安島2丁目11-8
アラキハイツ606号
電話：080-6926-7250
FAX：059-333-8277
営業時間：10：00～20：00（不定休）

会員活動紹介

海女を通して、地域が発展してほしい

野村 薫さん 有限会社 兵吉屋

野村薫さんは、元三重県伊勢県民センター・文化振興専門員で、現在は鳥羽市相差町の海女小屋体験「はちまんかまど」（有限会社兵吉屋）の専務を務める。

同施設は、今から10年前、海女小屋を解放し、現役海女達が来訪者に新鮮な海の幸をもてなす観光施設としてオープンした。

姑にあたる海女頭の禮子さんと、その仲間である70代～80代の海女たちのもてなしは、来訪者から“お母さん”と慕われ、県外からのリピーターも多い。

薫さんは、広報や会計を担当し、裏で海女たちを支えながら、「今後は、伊勢志摩の魅力をもっと皆さんに知ってもらうためには、地域が協力・連携して、お互いにスキルアップに努め、情報発信をしていくことが大切。そして若者を支えるような地域づくりも考えていきたい」と意気込んでいる。



住所：鳥羽市相差町あさり浜
電話：0599-33-6145
営業時間：不定休 ※予約制

ビューティーコンサルタント 林かづの

伊勢志摩
魅力再発見!

vol.9

こんにちは。『伊勢志摩の癒しのパワーでいつまでもキレイに健康に♪』をコンセプトに、活動している林かづです。

今回は、鳥羽の海女さんについてお話ししましょう。現在、県の取り組みとして、海女文化を国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産登録を目標としています。年々、その数が減っている海女さんの人口ですが、その文化的な価値は、大きなものがあります。

海女文化は、海に潜ってアワビやサザエを獲る漁のことだけでなく、そのための工夫された衣服や道具、陸に上がってからの海女小屋での過ごし方など、多岐にわたります。

例えば、衣服については、海女着という白い晒（さらし）で作った作業着を着ることで、サメに襲われないようにしています。最近では、冬は、黒いウェットスーツを着ることがありますが、浮力がつくので、腰におもりをつけて、潜るようにしているそうです。

又、アワビなどを岩からとるための「のみ」もカギ状になっていて、独特の道具です。そして、海女着やのみには、「ドーマン、セーマン」という魔よけの印を描いたり、彫ったりします。これは、「ともかつぎ」という海の魔物から身をまもる役目を果たしているといわれています。

それから、海女小屋での過ごし方。焚き火を囲んで、海女さんたちがその日に獲ったイセエビやアワビ、サザエなどをあぶっている光景を目にしますが、薪を焚いて、火にあたることは、耳を守ることになるそうです。こうやって、遠赤外線で体を温めることが、体を守ることに役立っているのです。そして、おしゃべりをして、笑って、ストレス解消。海女さんの作業は

寒くて辛いこともあるけれど、こういった「お楽しみ」もあるので、この仕事は「生きがい」と言われる方が多いのです。

健康の面からは、潜ったり、泳いだりすることで、血流を良くするためか、腰痛の改善にもなったり、アンチエイジング効果があるようです。「最近腰が痛いで、海女へ行こう」というおばあちゃんがありました。海女の作業は、さながらアスレチックジムのようなですね。

今年、韓国で行われている麗水（ヨス）万博では、海をテーマにした万博にちなみ「海女文化」を伝えることも行われています。世界で唯一海女漁をしている日本と韓国。昨年は、伊勢志摩の海女さんと韓国の済州（チェジュ）島の海女さんの交流会がありました。

これから、ますますこのように日本と韓国が海女文化を通じて交流を深め、次世代に向けて海女さんを増やして文化を継承していけるようになると思います。

鳥羽市相差町の「海女文化資料館」・御木本真珠島の海女さんの実演、答志島や相差の海女小屋などで、海女文化に触れることができるので、是非いらしてください。



プロフィール

● 林 かづ

鳥羽市在住。伊勢市出身、伊勢高校卒。ビューティーコンサルタント、ヨガインストラクター、レイキヒーラー、お宿アドバイザーとして伊勢志摩地域で活躍中。伯父は宇治山田商業高校卒、元読売巨人軍ピッチャーで現・Jリーグ東海ピッチングコーチ中村稔氏。

親バカ子自慢

連載コーナー①



秦香奈さん（左）と小笠原まき子さん（右）
＝桑名市江場の株式会社金星堂で

株式会社金星堂で代表取締役社長を務める小笠原まき子さんの長女・秦香奈さんは、探究心、向上心が強く、気丈夫、ニコニコした笑顔は母親ゆずりだ。

秦さんは、名古屋観光専門学校を卒業後、金星堂の観光部に入社。その後、結婚を契機にネイリストに転身。現在も活躍著しく、手先が器用でアクティブな女性という言葉がぴたりと当てはまる。

女性の手は多くの人の目に触れる場所、気を使つて欲しいと話す秦さん。『幸せは指先から訪れる』とネイルケアの大切さについて話した。

今、秦さんは色彩技能向上に向け、パーソナルカラー検

幸せは指先から訪れる

定取得に力を注いでいる。色彩技能を向上することが、自身の仕事だけでなく、母まき子さんの仕事にも活かされていくことが今後期待される。

ネイリストとして独立した秦さんは、まき子さんと経営者として同じ土俵に立つこととなった。

秦さんは、先代から会社を引き継ぎ、波風にさらされながらも二十三年間経営してきた小笠原社長を心から尊敬していると話す。

対して小笠原社長は、自身の経営者としての船出は、「子どもたちが多感な時期だった。大変な時期にもかかわらず、子どもたちは応援してくれた。だからこそ、経営者としての今がある」と胸の内を話した。

はたかな
秦 香奈 さん

職 業……ネイリスト

年 齢……36歳

趣 味……ゴルフ、書道

株式会社金星堂

桑名市江場481

新規会員紹介〈平成二十四年五月〉

尾 鷲 市

森田 久美子 様 有限会社ドーモ

三重って中部？近畿？

なぜなに？
三重県

連載コーナー②

三重県は中部地方でしょうか、それとも近畿地方でしょうか？と訪ねられたら、皆さんはどちらだと答えますか？

結論から言うと、「どちらにも属する」ということです。実際、三重県は中部圏知事会にも、近畿ブロック知事会にも所属しています。

行政区分では近畿に属することが多いようですが、区分は法律によって定められているわけではないので、地理的条件、歴史的背景、慣習などによって適宜区分けされているそうです。東海三県、愛三岐という言い方があるように、東海地方という方がしっくりくることも多いですね。

明治36年発行の国定教科書では、三重県を近畿地方としています。しかし、現在の国の省庁の所管区分では、中部・東海に含まれることが多くなっています。JR東海とJR関西本線、中部電力と関西電力、関西と東海の天気予報など例を挙げればキリがありませんが、南北に長い地形から、北勢地域と伊賀地域、東紀州地域では、それぞれ言語も文化も風習も異なる面が多々あります。

どちらにも属し、白黒つけずに「どっちでもいいよ」というのが県民性にも表れているのかもしれないですね。

パール倶楽部イベントのお知らせ

伊勢志摩ツアー「伊勢志摩パワースポットめぐり」

実施日 平成24年9月11日(火) ～別紙案内にてお申し込みください～

集合 近鉄四日市駅 8:00、近鉄・JR津駅 9:00、近鉄宇治山田駅 10:00

参加費 10,000円(消費税込) ※9月3日以降のキャンセルは、キャンセル料が発生いたします

内容 ●海女小屋「はちまんかまど」でお食事

現役の海女さんたちが、目の前で採れたての海の幸<セブコース>を炭で焼いてくれます。生き生きと働く海女さんたちの姿にも注目が集まっているスポットです。

●石神さんにお参り

女性の願い事を一つだけ叶えてくれるといわれる石神さん。全国から女性たちが訪れるパワースポットです。

●「せんぐう館」を見学

伊勢神宮外宮に今年4月にオープンした「せんぐう館」。8月6日に早くも来場者数10万人を突破しました。



伊勢新聞パール倶楽部事務局

〒514-0831 三重県津市本町34番6号
株式会社伊勢新聞社営業部内
TEL: 059(224)0003
FAX: 059(226)3554
HP: <http://www.isenp.co.jp/plc/>

表紙 Photo



全体総会ワークショップで「手を外側に大きく振って歩くとガニ股に、手を内側に振って歩くと内股になりますよ」という永井さんの話に、実際に歩く参加者。身体と歩き方、本当に連鎖するんですね。

●事務局の体制が変わりました

伊勢新聞社営業部の人事異動に伴い、伊勢新聞パール倶楽部事務局の担当者も交代いたしました。

新しく、岩脇香織と村山聡美の女性2人で担当させていただきます。皆様のエネルギーをいただきながら、女子力アップ!を目指していますので、至らぬ点多いと思いますが、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。お気付きの点がございましたら、お気軽にお声掛けください。

●HAPPY NEWSを募集中

日本新聞協会は、新聞を呼んで幸せな気持ちになった記事「HAPPY NEWS 2012」を募集中です。新聞を読んで「ほっこり」したことがある方、郵送またはインターネットでぜひご応募ください。

【切り抜き部門】

応募対象/2012年3月から2013年2月8日までに新

聞に掲載された記事。広告や読者・社外筆者からの投稿は除く。

応募方法 記事の切抜きを同封して、掲載日、掲載紙名、朝夕刊の別、HAPPYになった理由(400字以内)、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号を記入して、〒100-8543東京都千代田区幸町2-2-1、日本新聞協会「HAPPY NEWS」係まで郵送する。

締め切り 2013年2月8日(必着)、同日掲載の記事のみ当日消印有効

問い合わせ/日本新聞協会 TEL 03-3591-4637

【つぶやき部門】

応募対象 2012年3月から2012年12月25日までに新聞に掲載された記事。

応募方法 自分の笑顔と新聞を写真に撮り、HAPPYになった理由(80字以内)とともに①特設サイト(<http://happynews-tsubuyaki.com/>)内の応募フォーム②ツイッター③メールのいずれかで応募する。

締め切り 2012年12月25日正午